

視 察 報 告 書

<p style="text-align: center;">調査・研究テーマ</p>	<p>不登校児童・生徒に対する教育支援</p>
<p style="text-align: center;">目 的</p>	<p>不登校の政策を研究し、今後の本市での特例校の意義、役割、導入について調査するため</p>
<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>日 時：2022年5月19日（木） 午後1時～2時30分</p> <p>視察先：伊勢市教育委員会教育研究所 教育支援センター「NEST」 三重県伊勢市小俣町540</p> <p>説明者：伊勢市教育委員会 岡 俊晴 氏 学校教育課係長 中川 晴美 氏 伊勢市教育相談所 上永 真弓 氏 伊勢市教育研究所 馬場 佐和子 氏</p> <p>参加者：小川 寿士、浜口 健司、佐伯 加寿美 報告書作成者：浜口 健司</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<p style="text-align: center;">概 要</p>	<p>さいたま市では今年度から不登校等児童生徒の支援センター（通称：G r o w t h）を今までの市内6カ所の教育相談室のほかに設置し、支援を始めた。そこで、不登校の子どもたちを支援している他自治体を視察し、少しでもさいたま市の不登校児への支援の参考としていく。</p>

概 要

●教育支援センター「NEST」の運営について
「NEST」とは、「鳥の巣」という意味で「鳥たちの巣のように、安心して落ち着くことができる温かい場所から、やがて巣立っていくことができるように」という願いを込めてつけられている。

<運営方針>

- ① 子どもたちの自主的な活動を大切に、自立の力を養う
- ② 個に応じて、学校復帰に向けての支援をする
- ③ 保護者や学校と相談し、子どもたちのエネルギーがたまるように支援する

<運営スタッフ>

- 指導員 2名（教諭）
- 研修員 1名（教諭）
- 児童生徒自立支援員 1名
- 通級バス運転手 1名
- 学生ボランティア 若干名



●通級生・保護者への支援

- ・カウンセリング等の支援
- ・保護者面談（月1回程度）
- ・電話相談（随時）
- ・不登校、登校渋りをともに語り考える保護者の会
- ・学校訪問（計画訪問年2回）、毎月の通級状況の報告

【日常活動】

- ・ふれあいタイム
子どもの興味・関心に応じた活動
軽スポーツ、読書、工作、手芸、ゲームなど
- ・学習タイム
自主学習（1日1時間）
- ・体験的学習（月1回程度）
絵手紙教室、陶芸教室、トンボ玉づくり、カヌー体験、みかん狩りなど

【通級状況】

2021年度	小学生14人	中学生16人	計30名
2020年度	小学生7人	中学生12人	計19名
2019年度	小学生10人	中学生21人	計31名



所 見
・
成 果

不登校になる原因はさまざまだが、多くの児童がヘルプを求めている状況にある。

伊勢市の不登校児への取り組みは「徹底した寄り添い」にあり、まずは不登校児が安心できる「居場所づくり」にこだわっていることを実感した。NESTは教諭に加えて、比較的孩子もたちに年齢の近い大学生などのボランティアが多いことも特徴である。また、どうしても引きこもりがちになる不登校児に対し、月に1回体験的学習を行うことによって非日常的な空間を演出するというのも、非常に重要な取り組みである。

不登校児にとって大事なことは、大人が作った「居場所」をただ単に押し付けるのではなく、常に子どもの目線からどのような「居場所」が必要なのかを考えていかななくてはならない。どんなに制度を整えたとしても、不登校児が通えない場所では全く意味がない。

さいたま市の不登校等児童生徒支援センター（通称：Growth）については、設置初年度でまだまだ子ども目線で子どもに寄り添うというところまでは至っておらず、もっと工夫が必要なのではないかと考える。

伊勢市の児童数は約9,000人に対し、さいたま市の児童は10万人を超えているので、一概に比較はできないが、伊勢市での取り組みはさいたま市の不登校児対策にとって非常に参考になった。

今回の視察を経て、今後は本会議や委員会での質疑などを通じて、さらにさいたま市の不登校児対策に取り組んでいく。

基本政策

4. すべての子どもと若者に夢とチャンス